



令和7年度国立市市民表彰 社会福祉功労



“作り手と受け手が喜びを分かち合える” 笑顔をつむぐ、バルーンアート

くにたちバルーンアート you・遊

平成25年、国立市社会福祉協議会主催のバルーンアート養成講座を終了後、有志5名で会を立ち上げました。練習を重ねながら、地域行事や社会福祉施設等で一緒にバルーン作りなどを行い、子どもから高齢者まで多くの方に笑顔を届け、交流の輪を広げています。

くにたちバルーンアート you・遊が
設立した経緯を教えてください

平成25年9月に国立市社会福祉協議会主催のバルーンアート養成講座に参加し、終了した後、有志5名で会を立ち上げました。初めてのボランティア活動で分からないことがありましたが、国立市ボランティアセンターのご指導、ご協力のおかげで何とか活動することができました。

どのような活動をされているか教えてください

国立市内での各種イベントは、原則としてお断りすることなく積極的に参加し、市民の皆さんとのふれあいを大切にしています。国立市のさくらフェスティバル、消費生活展、福祉会館の市民福祉バザー、福祉のつどい、各種福祉会館でのひな祭り、矢川プラズや防災センターでのイベント、旭通りジュニアフェスタ、くにたち中央図書館や児童館で子どもたちと一緒にバルーン作りなどを行い、楽しみながら交流を深めています。様々な場所でのボランティア活動を通じて、子どもから高齢者まで幅広い世代と関わり、地域に寄り添った活動をしています。

活動を継続されるにあたって工夫されたことを教えてください

毎月、福祉会館で自主練習をしながら作品づくりの工夫をしています。秋冬からお正月にかけてはハロウィン、クリスマスに関係するものや雪だるま等、春にはお花、夏には海や川など水に関係する生き物といったように、季節に合ったバルーンを作っています。会員同士技術を教え合い、始めたころと比べると、想像もつかないほどの作品を作ることができるようになりました。

常にどんな作品であれば多くの方に喜んでいただけるかを考えながら制作に取り組んでいます。

活動を通して印象に残っていることを教えてください

何といたってボランティア活動を通して、子どもたちとの毎回の触れ合いは忘れることができませぬ。子どもたちからリクエストされた作品を作り、手渡したときの「ありがと」の一言やあふれる笑顔の数々が大きな励みとなり、それが12年間活動を続けてこられた原動力となっています。“作り手と受け手が同時に喜びを分かち合うことができる”、ボランティアをされていて良かったと思える瞬間かもしれません。

今後の活動及び展開などありましたら教えてください

これからも自主練習を通して技術を磨き、地域の皆さん、特に子どもたちに喜ばれる会にしていきたいと思っております。上記にも述べましたが、国立市のイベントは積極的に参加しているため、可能であればお子さんも含め保護者の方も一緒にバルーンを作り、楽しさを実感してもらえたら嬉しいです。バルーンアートの楽しさを広めていきたい、そういう機会をもっと作っていきたい、と思っております。

その他、ございましたらお願いします。

くにたちバルーンアート you・遊の名前ですが、作り手と受け手が喜びを分かち合える、という意味を込めて付けました。イベントなどでお見かけした際は、是非一緒にバルーンアートを楽しみましょう。



▲代表中村氏が
バルーンアートを教える様子



▲イベント時に作成したバルーンアート



▲練習風景



▲イベント出展時の様子